

4得点目を上げた赤嶺。ゴールだけでなくゴールを演出する側にも回り、原の1点目をアシストした。
(撮影・川崎篤彦)

KOMAZAWA 5 × 2 MEIJI

前節に続き 5得点の快勝 止まらない攻撃力!!

完璧だった前半、集中力切れた後半

前節、怒涛のゴールラッシュで亜大を圧倒する戦いを見せた駒大。今節、またも駒大のゴールショーは続いた。

前半早々、試合は動く。左サイドから一気に駆け上がった島田にすばやく反応した鈴木亮がボールへの執念を見せ、島田からのクロスボールを頭で捕らえゴールネットを揺らした。この1点を皮切りに駒大の攻撃が爆発する。17分には、赤嶺のアシストから原が自らゴール前まで持ち込み、落ちて着いて柔らかなルーブシュートを放つ。早い時間帯での追加点が一気にチームの士気を高めた。20と序盤からリードすると34分には、またも左サイドに走り込んできた島田の鋭いパスからゴール前に詰めていた原が押し込み3点目をマーク。その5分後には立て続けに赤嶺がゴールを奪い40で前半を折り返した。

「前半は何も言うことがない」塚本(試合展開で前半を終え、迎えた後半。前半とは打って変わり、相手の猛攻撃が始まる。「前半の4得点で安心感がでた」(八角)、気持ちの余裕ができて失点してしまった)と、試合後選手たちは口を揃えて後半の失点を悔やんだ。確かに後半に入りチーム全体の歯車が噛み合わず、空いたスペースを突かれ2失点を喫してしまった。「防げた失点だった」と鈴木亮が言うように精神面の弱さ、コミュニケーション不足を露呈する試合となった。

前期同様、優勝争いが熾烈を極めるのは言うまでもない。少しの予断も許されない状況であるだけに、小さなミス、失点は防がなければならぬ。しかし、これから優勝を目指すにあたり早い段階で修正点が見つかったことは、今後非常に大きな意味を持つ。今節新たに明確になった点を補強し、更なる快進撃を続けてほしい。

(新井 剛子)